

【大多喜町】校務DX計画

本町では、令和3年度に1人1台端末を導入後、Microsoft teams 等を活用し、児童生徒及び教職員への各種連絡のデジタル化を進めてきました。

令和5年度には、統合型校務支援システムを導入し、出欠等の各種管理も行っています。

また、令和6年度には、保護者連絡アプリを導入し、学校と保護者間の連絡(保護者からの出欠連絡や学校からの配布文書等)をデジタル化しました。

このような取組をさらに進めるため、文部科学省の「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検を実施し、以下の点に留意しつつ取り組んでまいります。

(1) 会議資料のペーパーレス化

本町では、各学校に配付する文書等をデジタル化し、校務サーバ等に保存することで、ペーパーレスでの情報の共有を行っています。また、各学校においても資料をデジタル化して閲覧できるようにするなど、会議資料のデジタル化が進んできています。

今後は、学校間、教育委員会をまたぐ会議等においても、校務サーバはもちろんのこと、Microsoft teams をはじめとするクラウドサービスも活用し、会議資料のペーパーレス化を一層推進します。

(2) 学校と保護者間の連絡手段のデジタル化

平成24年から連絡メールシステムを利用しておりましたが、令和6年度から保護者連絡アプリを導入し、学校と保護者間の連絡をデジタル化しました。

児童生徒の欠席、遅刻、早退連絡や、保護者への調査・アンケート等は連絡アプリを使用し、学校と保護者間の連絡のデジタル化、児童生徒への各種連絡のペーパーレス化を推進してきました。

今後は、保護者からの問い合わせや連絡、面談の予約等についても、連絡アプリを通して行うなど、機能を最大限に生かして、より一層効率的な運用を進めていきます。

(3) 不合理な手作業を一掃

本町では、校務用サーバの分離システムにより、学校－学校間、教育委員会－学校間の文書連絡・資料送付に活用しています。また、教職員に業務用の共通メールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用しています。

一方で、令和5年12月に文部科学省より発出された「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが見受けられます。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAX のほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX 及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、町教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

併せて、各学校に対して、外部へ児童生徒の個人情報など機微な情報を送信する際の注意事項等について周知啓発します。